

土田帆山遺作展



書において何が
いちばん大切で
あるかというと
心の高さであり、
それから流れ出る
調べであると思う。

昔の筆を善くした
人はいずれも技巧
以上に書の品格、
気韻の生動という
ことを心掛けた。

1968年



2012 10.30(火) ~ 11.4(日)

【入場無料】

開館時間 午前9時～午後5時(最終日は午後4時まで)

場所 福井県立美術館 福井市文京三丁目16-1

主催 洗心書道会

後援 福井県・福井県教育委員会・越前市・越前市教育委員会・越前市文化協議会・(財)毎日書道会・
(公財)独立書人団・(一社)若越書道会・福井新聞社・FBC福井放送・福井テレビ

土田帆山遺作展



土田帆山(本名・^{はんざん} 脩^{おさむ})は、大正7年(1918年)福井県今立郡新横江村定次(現鯖江市)に生まれました。旧制中学一年の秋、腸チフスで二ヶ月欠席、死ぬかと思った病床で見上げると書額「月照心」(黄檗宗二代住職の書)があり、「いいなあ」と思ったのが書に魅かれた最初だったと述懐しています。

昭和14年(1939年)福井師範学校を卒業し味真野小訓導(教諭)となり、杉本長雲に書を習います。

昭和23年文部省主催の書道講習会を受講して手島右卿に魅かれます。徳野大空、その後手島右卿に師事します。伝統と革新を併せ持つ全く新しい書の世界をめざし、東洋的な精神と絵画的な感性で近代書を革新したと言われる手島右卿が、昭和27年(1952年)創設した独立書道会(現独立書人団)結成に参加。その後、師右卿宅に一年間寄宿して書を学び帰郷します。そして右卿の理念をもとに「武生を書の街に」と洗心書道会を組織して後進を育成、更にヨーロッパやアメリカなど海外での個展を含めてのべ15回個展を開き活躍しましたが、平成20年(2008年)に89歳で死去しました。

今回の「土田帆山遺作展」では、主に土田家蔵の生涯にわたる代表作約百点を展示し、あらゆる書体を駆使した作品で帆山の世界を堪能できます。その中には、昭和40年毎日大賞受賞の「剛」、フランス展の案内状に採用された「驪」など、話題作が含まれています。

米寿個展のあと闘病しつつも、90歳記念の個展を開こうと書作に打ちこんだ、その未発表の帆山作品も是非ご覧いただきたいと思います。



46歳「剛」毎日展



64歳「秀」大阪個展



88歳「欣緑」毎日展

土田帆山さんの作品は、いくつかの既定概念を打ち破り、現代の新しい姿がしっかりと表現されているので魅力がある。

一つは墨色がきわめて淡く、起筆ではにじみがたっぷり表現される。次は線が羊毛の長鋒であらゆる角度で表現が実施されるので、きわめて斬新だということだ。さらに金文や篆書の形を現代のモダンな形に再構成し、大小を極力違えて、全体を複雑な線表現によるバランスの創作といった新しい表現領域を開拓している。

小野寺啓治氏評(「アートマインド」No151より抜粋)



67歳 独立会員展
「秋風や眼を張ってなく油蟬」
渡辺水巴の句



76歳「山寿」喜寿個展

講演会 入場無料

■ 11月4日(日) 午後2時~3時

会場 福井県立美術館講堂

■ 講師 小野寺啓治氏
(美術評論家)

■ 問い合わせ 土田雅道 携帯:090-2377-6559

